(6) 精神科ソーシャルワーカーの資質向上に関する研究動向

医療福祉学研究科医療福祉学専攻博士後期課程　○藤原　朋恵
医療福祉学研究科医療福祉学専攻　長崎　和則
医療福祉学研究科医療福祉学専攻　竹中麻由美

【目的】

2018年より「精神保健福祉士の養成の在り方等に関する検討会」が行われ，精神保健福祉士の資質向上および，資格取得後の継続教育や人材育成の在り方の重要性が指摘されている．しかし，成長した状態や，成長に至るプロセスについて統一した見解は未だ見られない．

そこで本稿の目的は，多岐にわたる支援を行う精神保健福祉士の資質向上および成長に関する文献レビューを行い，その研究動向を明らかにすることである．

【方法】

精神保健福祉士の資質向上，成長に関する研究について整理するために，検索語として「精神保健福祉士」AND「資質」・「向上」・「成長」を CiNii で検索し，46件が抽出された（2023.9.15現在）．抽出された文献のうち重複したもの，本研究の目的と相違する実習・教授法については除外した．なお，レビューした文献に引用されていた21件を加え，最終的に31件を対象とした．

【結果】

精神保健福祉士の資質向上・成長に関する先行研究は，1「苦慮」「疲弊」「ジレンマ」の経験を契機にした成長，2 養成教育と継続教育の連続性，3 自己教育力，4 研鑽機会と方法，5 ソーシャルワーカーの技能や能力の要素と段階，6 クライエント視点での精神保健福祉士像に分けられた．

精神保健福祉士が資質向上・成長する過程では，経験が浅い時期に困難を経験していることや力量形成のプロセス，新人期・中堅期・ベテラン期の実践課題が示されている．また，成長には自己教育力や研鑽機会が必要であると示唆されている．そして，クライエントの視点から精神保健福祉士に「成長してほしい」と述べられている．なお，全ての研究においては，仕事に関する経験に焦点が当てられている．

【考察】

精神保健福祉士はクライエントの人生を支援するため，仕事に関する経験のみならず，個人の生活全般の経験も支援に影響することが考えられる．そのため，精神保健福祉士の生活全般の経験から成長に関する要因を明らかにする必要がある．